

日 92. 3. 10

新

分

大

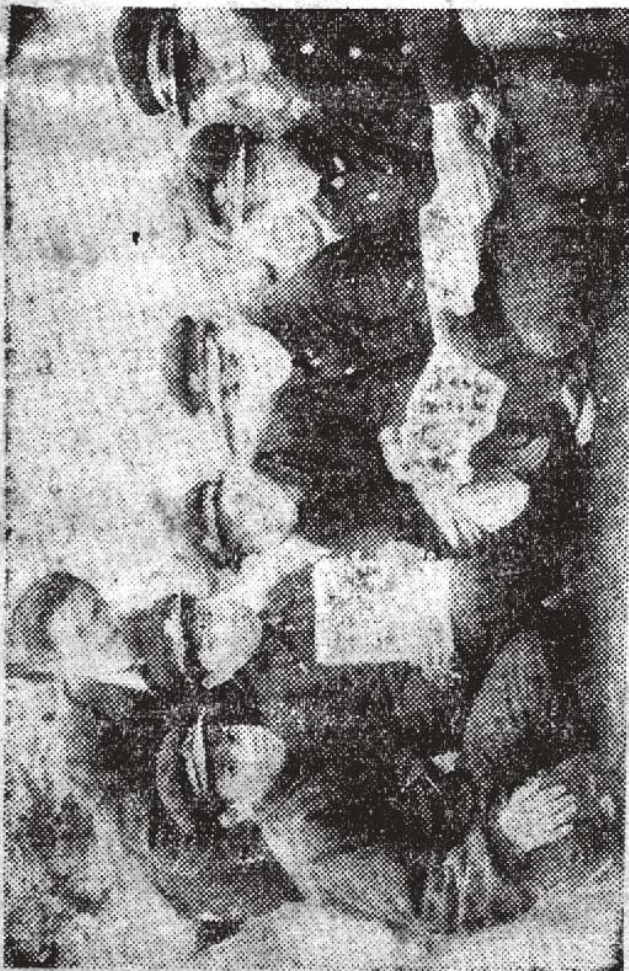
郵便物影写

いども



“別府風土記”を完成 青山小学校の卒業生たち

【別府】六年間卒業にまなんだ社会科の知識を生かして、郷土を知り、学修得点をまとめる意味で、この春卒業する、青山小学校六年三組伊藤昭孝君ら四十数名が、担任の安部麗生指導のもとに昨年十月から「別府風土記」の編さんにかかっていたが、こんどついに地誌編②風土編の十二巻（約六百ページ）の大冊を完成、卒業記念に学校図書館に寄贈することになりました。（しやんはみんなで苦労してつくりあげた「別府風土記」手にした青山小学校の卒業生たち）



別府風土記の編さんにあつては、まずよいまの眼に映つた別府の現状と、将来いかに発展したらよいかを考ふる手がかかりをつくるため、自主的にあらゆる面にわたつて調査した資料、地形、気候、交通、産業、温泉、観光など十一項目と、それに繁（つな）がる三十七項を第一集「地誌編」に、部落、観光地、労働、生活、方言、祭行事など十二項目二十八項を第二集「風土編」に盛っています。

たとえば「交通」国鉄の項では別府駅の年間の乗降客数をグラフで表（あら）わし、何月がなげ多いか、なぜ多いかの観察と生徒自身の率直な感想が記されており、小学生の作つたものは、とても思えないほどの壁つた、実に立派な出来栄です。指導にあつた安部麗生は「何故もれづまづはまた最初

からやりなおす、その熱意と根気にはまづたく感心しました。なに校図書館に保存して、郷土を語るための参考資料にしたいと考えています」から生徒たちも非常な苦労をしたと、お話しになっています。